



# 尾久西だより

荒川区立尾久西小学校

発行日 令和元年9月2日

発行者 校長 芝田智昭

No. 340 9月号

## 心揺さぶられる体験

長かった夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。始業式で久しぶりに会った子どもたちは、普段の生活ではできない経験を通して、一回り大きく成長したように見えました。

夏休み中の行事の一つに、5年生対象の北海道広尾町でのホームステイがあります。今年で4年目を迎えるこの事業は、広尾町で漁業または農業を営む家庭に2泊3日お世話になり、仕事を体験したり現地の小学校5年生と交流したりして、共生の心を育むことを目的としています。子どもたちは3人から5人のグループに分かれ、14の家庭にホームステイしました。

私を含めた引率教員は、分担してすべての家庭を訪問し子どもたちの様子を見ることができました。その一コマを紹介します。

### 【正座で話を聞く男子5人】

話をしていたのは強面の漁師さん。子どもたちは普段以上の真剣な表情で、返事はすべて「はい。」でした。

### 【黙々と牛の世話をする女子3人】

つなぎに長靴の女の子たち。牛がえさを食べやすいように、スコップを上手に使い口の近くまで運んであげていました。

### 【野菜を収穫する女子】

玉ねぎの収穫を終えたところにお邪魔したら、畑からニンジンも新たに掘り出し担任にプレゼントしていました。

### 【マキ割がめきめき上達する男子】

最初はマキの中心に斧が入らず苦労していましたが、あっという間にコツをつかみ、きれいに割ることができました。

最終日、ホームステイ家庭の方々とお別れする会がありました。子どもたちは感謝の気持ちを手紙に綴り、心を込めた歌と呼びかけを準備して臨みました。

リハーサルの段階から涙を抑えきれない子、涙で言葉に詰まり手紙が読めない子、歌を歌っていたら思いがけず涙がこぼれてきた子、そんな光景が会場にあふれ、本当に多くの子が“心揺さぶられる体験”をしたんだなあ、と、実感しました。期間は長くはないですが、受け入れ家庭の方々の心遣いや心配りが子どもたちの心に伝わり、感動につながったのでしょう。

5年生は、7か月後には尾久西小の最上級生になります。人の心が分かる子たち、感動する心をもった子たちは、立派な6年生になれます。同時に、こうした体験をした子たちは、人の心を揺さぶる人にもなれると私は考えています。